コラム 4-4　バンデューラのボボ人形実験

バンデューラが行った模倣学習を示すボボ人形（ビニール製の空気が入った大型の人形で，起き上がりこぼしになっているもの）を使用した実験では，まず大人がボボ人形に対して特定のシナリオに従った「モデル行動」を行い，その様子を子どもたちに観察させました。そして，観察したモデル行動ごとに，子どもの行動がどのように変化するかを観察して比較しました。

「攻撃的モデル」のシナリオでは，大人たちは，ボボ人形を叩く，パンチする，おもちゃのハンマーで人形をなぐるなど，乱暴な行動をしました。「統制モデル」のシナリオでは，大人たちは，ボボ人形に対して乱暴なことはせず，親しそうに接しました。すると，攻撃的モデルを観察した子どもは，そうでない子どもよりも，ボボ人形に対して明らかに攻撃的になりました（下の写真は，人形に乱暴する子どもたちの例です）。

モデリング理論では，攻撃行動は，他人の攻撃行動を観察することによって促進されると考えています。この立場では，他人の攻撃場面（たとえばテレビの暴力シーンやボクシングなどのスポーツ）を見ることが，攻撃行動を促進すると考えます。攻撃的な映画やアニメの視聴年齢に制限があったり，年少者による視聴を禁止するという対応は，このような考え方からきています。しかし，そうした攻撃的行動をテレビやビデオで見ることによって，攻撃性や欲求不満などを解消する，すなわち浄化作用や代償効果もあることも事実なので，攻撃的な映画やアニメを禁止することがよいとは，一概にはいえません。問題は，攻撃的･反社会的な行動を模倣する傾向をもつ人が一定数存在することであり，こうしたある種の個人的傾向を正確に理解する必要があります。

（出所）https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=49086701